

足立健康友の会

かばら支部ニュース

第40号
2011年11月17日
☎: 3605-5594
<http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/>

四百人が楽しんだ

第25回蒲原健康まつり

10月23日(日)、前日の雨もすっきり上がり、祭り日より。

蒲原診療所の一階待合室と駐車場の狭い会場ですが、総勢400名にも上る参加者で楽しい一日となりました。

「蒲原健康まつり」の目玉の一つ、東京土建綾瀬分会有志様による包丁ときには、186本の依頼が殺到。おもちゃの病院では、5人のトイドクターが診察と動くおもちゃで子供の目を釘付け。前日から仕込んだとん汁や焼きそば・山菜ごはん・蒸しケーキ、フランクフルト、ビール、キムチ、パザ一品、野菜・くだもの等、売り子の客引き声で「まつり」が盛り上がりました。

芸能達者の演芸がもうひとつの目玉。待合室では、外の模擬店で



思い思いに買い込んだ物を口にはうばりながら演芸を楽しみました。桜遊会のみなさんは、近くの東綾瀬公園で雨が降らないかぎりラジオ体操よりも早く集まり猛練習をしています。かばらの催しには必ず参加して頂いています。「銭太鼓」につづき「南京玉すだれ」にはおひねりも投げ込まれました。歌声サークル「こもれび」はう



つくしい合唱を披露していただき最後は観客といっしょに「ふるさと」を合唱しました。東都企画の職員が参加するフラダンスの仲間たちと5人の子どもも応援にかつけ元気で美しいフラダンスを披露してくれました。蒲原では知らない人はいない有名なシャンソン歌手、馬越工さんのおしゃべりと歌に会場はうっとりしました。そしてバルーンアートのお姉さまが風船でグニャグニャねじっているとお花や動物が出来上がり、子どもたちに人気でした。また、今回初めてになります。友の会班会で作った手芸品、友の会員・職員の写真、石積みランプの作品展示もありました。

締めは空クジなしの抽選会。1等賞は自転車でした。初めて参加



されたトイドクターが、2等賞ホームベーカリーを当て喜んでいたり後日談がありました。

最後になります。が、「まつり」の看板を立てるなりバザー品を持って来てくださる方、景品を調達して下さる方、「まつり」会場設営に協力くださる三浦工務店様はじめ、

看護・介護・生活相談会

いつ 毎月、第3木曜日10時
どこで 小児科診察室

普段、受診しても先生と相談する時間がなく困っていること・わからないことなど相談ができます。

12月は15日10時

第2回原発学習会 10月31日

友の会員・職員と後片付けまで手伝って下さる土建綾瀬分会有志の皆様心から感謝申し上げます。
蒲原健康まつり事務局長
大脇 貴美子

◆◆◆◆◆
シリーズ第二回として「福島原発事故は何故起こったの」を開催しました。講師は原発問題住民運動全国連絡センターの野村存生さん。

- 一・福島原発事故は起こるべくして起こった事故である。
政府・東電は想定外の地震・津波であったと言っているが住民運動センターとして、危険性を指摘した文書を十回以上も国と電力会社に提出してきた。
- 二・北海道泊原発の再稼働は許せない。福島原発事故の教訓を検証しないままに再稼働をゆるした政府の責任は重い。
- 三・ストレステスト
電力会社がやり、保安院がOKをだすもので、あくまでも再稼働を前提にしたものである。
- 四・日本の原発は安保条約に基づいた核戦略の為の政策。アメリカが天然ウランを「夢のエネルギー」



組織強化 月間目標を超過達成

かばら支部は10月31日に月間目標を達成しました。これは08年度から4年連続の達成となり、10月から12月までの3ヶ月



※した人も、原発のない町をどう作っていくのかを考え話し合っていくことが大切。

六・ベラルーシへの旅

チェルノブイリ原発事故の影響をもろに受けた国です。気象・医療などあらゆる研究者・専門家各階層の人々を集めプロジェクトをつくり、国民の生活レベルで調査・研究をして、その結果を国民に知らせる事を共和国の使命としている。プロジェクトに参加している者はすべて無償で力を出している。これが本当の国のあり方と思えました。
企業の儲けの為に国民の生命を奪う、この様なことを平気でする国・大企業を許すことは出来ない。今後は原発の再稼動を許さない、除染を徹底的に行わせる運動が大切だと思います。

担当 渡名喜 史子

の組織強化月間がスタートしましたが最初の10月だけで46名の入会者があり4月から9月までの19名と合わせて年目標(80名)の8割である64名を超過達成しました。10月に達成できたことはもちろん初めての快挙です。

これまでと同様に会員ではない55歳以上の医科・歯科の全患者さんを対象に所長・事務長・看護師長・衛生主任等の連名で「友の会に入会して安心して住み続けられる街をみんなでつくりましょう」と呼びかけました。

長くお世話になっていた患者さんは快く応じて、入会金を診療所の窓口・友の会コーナーそして自ら郵便局まで出かけ振り込んで応援してくれました。看護師さんや他の職員が顔なじみの患者さんに診療に来た時に友の会への入会の声掛けをしていただいたことも大きな力になりました。

これから三浦半島への日帰りバス旅行の参加者への呼びかけや手紙を出した患者さんへの電話での入会呼びかけなどを行い、もっと多くの仲間を迎えて、友の会のサークルや仲間を求める人が楽しく交流できる地域での集まりをたくさん作っていきたいと思います。

かばら支部 役員会

故郷の明暗 その

沖に出た漁師が見た光景

TVや新聞での報道でお分かりのように今回の大震災で沿岸漁業用の漁船は、その八割以上が被災して使い物にならなくなったと聞いています。

これに関して実家の婿さんの漁師仲間から聞いたという話ですが興味を持ったので紹介します。普通、沿岸部での地震発生に伴って漁師は自船に乗り込み、港から離れ沖合いに避難することが常識になっていきます。それはTV画面で度々、映し出されたように陸上に船が打ち上げられないためと、津波の力で港に係留した船が転覆しないためです。

その日も地震発生とともに漁船の数隻は全速力で沖合いをめざしたそうです。そして数分後、巨大な水の壁が船に乗る漁師の目の前に迫りました。その漁師の語ったことによると舳先が青空めがけて進み「このままでは空と衝突してしまう」と錯覚するほど持ち上げられたそうです。海上保安庁の巡視船からの映像でこの沖合いの津波を見ましたが、冷静であるはずの乗組員が驚きの大きな声を上げていたのが印象に残っています。



それだけの凄さがあったようです。巡視船は数千トンのクラスの船です。それに比して沿岸漁業で使う漁船は3トンから10トン位しかありません。木の葉のように巨大波にほんろうされる姿は、葛飾北斎の富岳三十六景に出てくる「神奈川

沖浪裏」と言う浮世絵に描かれた和船そのものだと思います。その津波が6波、7波続いて、そこを越したら波も立たない穏やかな海面が広がっていたそうです。べた凧の海に漂う船で、漁師は何を感じたのでしょうか。津波に巻き込まれて転覆する死の恐怖、そして極楽浄土の池のような海面。一瞬のうちに漁師たちは海の上で地獄と天国を同時に味わったことになったのです。

担当 嶺岸宏

放射能測定器貸し出せます

かばら診療所グループでは、放射能測定器を入手しました。

子ども達が遊んでいるところや、放射能が高いのではと気になるところで放射能測定を行って除染対策個所の見つけ出しが望めます。

貸し出しを希望される方は

蒲原診療所 嶺岸 (3605-5594) まで

但し、友の会会員に限ります

五・原発をなくす運動
原発のある町には迷惑料Ⅱ地方交付金が出されている。原発誘致によって産業が興り地域開発が活発になったと言う様にはなっていない、誘致に賛成した人も反対※

担当 渡名喜 史子

担当 嶺岸宏